

第3回 蕨市まち・ひと・しごと創生総合戦略に係る市民懇談会 会議概要

■日 時 平成27年10月17日（土） 午前10：00～正午

■場 所 市役所4階 第1委員会室

■出席者（敬称略）

委 員：秋山滋雄、内田浩、大矢純三、岡本和子、落合遥香、関克巳、鵜沢哲雄、
永沢映、長谷川浩司、林大樹、前野まゆみ、柚木香澄

事務局：川崎文也（総務部長）、根津賢治（総務部次長兼政策企画室長）、
田熊純也（政策企画室室長補佐）、吉田圭介（政策企画室主事）、
森本悠理（政策企画室主事）

横山徹、佐久間萌、古谷亜希子（システム科学コンサルタンツ株式会社）

傍聴者：2名

■次 第

1. 開会

2. 議題

（1）（仮称）蕨市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン及び総合戦略について

3. 懇談

4. その他

5. 閉会

■内 容

【会長あいさつ】

【前回の会議概要について】

事務局より、前回の会議概要を確認した。

⇒会議概要についての異議はなく、公開することで承認した。

【議題】

（1）（仮称）蕨市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン及び総合戦略について

事務局から、（仮称）蕨市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン（案）について説明した。（資料1・資料2参照）その後、次のとおり質疑応答を行った。

委員： 資料１の人口ビジョン（案）については、地方都市と比較すると若い方がずいぶん多く、将来的な人口減少についてさほど危機感を覚えるほどではないようにも感じるが、大きな方向性として、人口の維持を考えることは重要だと思う。

「③産業３区分別就業人口比」について、分類不能の産業がずいぶん増えているが、これはどのような産業が該当するのか教えてもらいたい。

「６ 人口の将来展望」について、「１０代後半から２０代前半の独身者が東京都区部から流入」とあるが、区内在住の方が蕨市に引っ越してくるイメージがあまりないので、どのような認識であるのか教えてほしい。

蕨市内の各地区について、例えば、中央や北町など大型マンションの建設がある地域は若い世代が多いが、南町や塚越は異なるなど、地域ごとの傾向の違いが分かれば教えてほしい。

人口ビジョンにおける総人口目標値について、２０４０年の総人口が現状より増えることになっている。わが国全体が人口減少局面にあり、また、蕨市は人口密度が日本一高いという特性を持つ中で適正なまちづくりを考えた時に、人口を増やすことが必ずしも良いことなのかを考える必要もある。場合によっては、適度な人口規模のもとで、公園や緑を増やしたり、道路を拡張するなど、現在の住民の住みやすさを重視すると考えるならば、目標人口の達成が厳しくなるケースもあるだろう。ある程度、人口減少に向けた戦略を検討する必要があるのではないか。

次に、資料２の総合戦略（案）については、にぎわい創出は非常に重要だと思う。今後、市の商工生活室が中心となって担っていくのだろうが、具体的な戦略を進めるためのマンパワーやスキルが十分なのか、また、蕨市には、他市のように経済振興や産業振興に特化した部署がないので、体制をどう構築するのか検討が必要だ。

最後に、協働についても非常に重要である。先般、協働事業提案制度の審査会に参加したが、実態として、魅力的なＮＰＯなどの担い手が出てこないという危惧がある。市職員のマンパワーを補うこととも関連するので、協働を進める上での前段である、担い手をいかに創出するかを考えていかなければ、絵に描いた餅になってしまうと感じている。

事務局： まず、総合戦略に関してお答えしたい。「にぎわい創出プロジェクト」について、マンパワーやスキルをご心配いただいたが、ご指摘の通り厳しい面も多々ある。体制については商工生活室が主体となる部分もあるが、施策によっては、都市整備部や教育部など複数の組織の連携も密にしながら進めることが重要と考えている。多くの職員を新しく採用することは難しいので、既存の組織や職員でどういう体制をとれるか、今後も研究したい。

協働についても、ご指摘のとおりである。協働の取り組みはまだまだ発展途上にあり、引き続き力を入れていきたいと考えて盛り込んでいる。協働に向けた担い手の育成、意識の醸成についても、引き続き検討していきたい。

会 長： ただ今のお話にあった協働事業提案制度について、応募資格があるのは市内在住の者だけか。蕨市に通勤・通学する者はどうか。

事務局： 市内で社会貢献活動を行っていること。または、すでに市外で社会貢献活動を行っており、今後、蕨市内で活動を行う計画がある団体を対象としている。また、協働について補足すると、蕨市では、以前より、市民と行政が一緒になってまちづくりを進めていこうという動きがある。小さな市なので、市民と行政との距離感が比較的近いという特徴があり、その特徴を活かしている。今年、「蕨市職員宣言」を策定したのだが、宣言の一つに協働を掲げており、どんな仕事も市民とともに取り組むこととしている。これを全職員に周知し、協働に積極的に取り組むよう努めているところである。人を増やすことは難しいが、職員の意識を変えて、今後も協働を進めていきたいと考えている。

委 員： 協働事業提案制度の応募数を増やし、内容も魅力的にしていこうための仕掛けを考えていく必要があると感じている。

事務局： 先ほどの人口ビジョンに関するご質問について説明したい。分類不能の産業については、第一義的には第1～3次産業のいずれにも該当しないと判断される産業であるのだが、それ以外に、無回答や回答の不備による「不詳」も含まれている。平成22年国勢調査には、全体的に「不詳」が増えたという特徴があるので、このデータにおいても「不詳」が増えた結果分類不能の産業が増えたと理解している。

「独身者が東京都区部から流入」とした背景であるが、蕨市において転入超過となっている年代は、15～19歳→20～24歳であることが分かる。このことと、15～19歳および20～24歳における有配偶率の低さを重ね合わせて考えると、転入超過となっている年代には独身者が相対的に多いと推察される。

市内各地区における特性の違いについては、地区ごとに住宅開発の年代が異なるので、そこに住む方々の高齢化の状況等も異なる。近年に集合住宅の開発が進んだ地域では若い人が比較的多く、以前に戸建住宅の建設が進んだ地区では高齢化が進んでいる状況である。

目標人口の考え方については、自然動態・社会動態をご覧いただくと、近年では社会増の傾向となっていることが分かるが、社人研推計の仮定値にはこの社会増の傾向が反映されていないため、目標人口の推計にあたっては、蕨市における過去10年間の実績から算出された仮定値を用いている。社人研の推計は、実際に以前の推計で平成22年の蕨市人口を過小に見積もっていたという

こともあり、今回は、蕨市における社会移動の趨勢から推計した、ということである。

また、出生率については、国が2040年に2.07程度としているところ、目標人口の推計では蕨市における出生率の低さを勘案して2040年に1.8としている。このような考え方にに基づき、目標人口を推計している。

人口ビジョンに掲げる目標人口については、増やすことが必ずしも良いことなのかという認識はある。蕨市は確かに人口密度が高いが、世田谷区など、蕨市より人口密度が高くても住宅都市として魅力的なまちも存在するので、人口密度の高さが問題であるから人口を減らそう、という認識は基本的にしていない。

もっとも、これらの点について、日本全体が人口減少にある中で蕨市だけが増加するとは考えられないので、より住みやすいまちづくりをすることによって転入する人が増え、結果的に人口が維持されるという趣旨と考えていただきたい。

委員： 外国人人口についてだが、これは、定住している方、留学のため短期間住まわれている方など、すべて含んでいる数値か。私が住む地域では留学生が住むアパートが多く、町会の行事にも参加してもらい盛り上がっているのだが、短期間で入れ替わる方も多いようなのでお聞きしたい。

それから、不登校児童生徒数についてだが、これはどのような定義でカウントする数値か。学校に来ても教室に入れない子どももいて、その子たちは不登校扱いにならないと聞いたが、どうか。

もう一つ、資料2総合戦略の「子ども未来プロジェクト」についてだが、出産前からの切れ目のないサポートは非常にありがたいと思う。私自身、蕨市に転入した際に、子どもの検診の充実ぶりに驚いた。小さな市であっても、各地域に児童館があり、子育て支援センターもあり、学童保育もあり、色々な場でお世話になっている。

他市から転入してきて蕨市に馴染みのなかった人が、子どもが幼稚園や保育園、小学校などに通う中で、父母の会や育成会、子ども会、PTAなど、様々な人のつながり、コミュニティが出来てくる。会の役員を掛け持ちする熱心な人もいれば無関心な人もいるのだが、いずれにしても、蕨市らしいコミュニティがあって、住みやすいまちになっていけば良いと思っている。

事務局： まず、外国人の状況についてだが、今年8月時点で、約4,000人のうち留学が約800人、永住者や日本人の配偶者等が約1,600人となっている。掲載したデータは、留学や家族滞在なども含んだものである。

次に、不登校児童生徒数の定義についてだが、年度の当初から通算30日欠席した場合を不登校とカウントしている。

委員： 人と関わることで、蕨に住みたい、蕨が好きという気持ちになると思う。私

の場合、都内の高校に通学していたのだが、高校３年の時に蕨市の国際事業に携わり、地域の人と関わる機会ができて、蕨が好きになった。そういった経験をしたので、高校生よりもっと早いうちから、地域に関われる事業やイベントがあると良いと思う。小学生は合宿通学などの機会があるが、中高生にも、地域ともっと関われる機会があれば、蕨を好きになって住み続けてくれると思う。

会 長： 総合戦略に示された事業の中には、例えば、音楽によるまちづくりや協働事業提案制度への参加など、高校生や大学生にもっとアピールした方が良いものがあるように思う。

委 員： この総合戦略は、子育て支援など人口政策に力を入れているように感じられるので、他の計画や施策の中で、産業政策についても取り組んでもraitたい。蕨市ではサービス業や商業が中心になると思うが、その活性化が必要だと思う。

それから、民間を活用したアウトソーシングを進めてほしいと思う。P F I によるインフラの整備などが県内でも進んでいる。蕨市で言えば、病院や庁舎整備における民間活用、学生やN P Oなどの参画による施策立案など、様々な民の力の活かし方が考えられる。

前回の資料と比較すると、蕨らしさについての表現が加わったと思うが、せっかくならば日本一にこだわってはどうか。例えば、日本一花いっぱい、日本一祭りが多いなどが考えられる。あるいは、行政が３６５日化を先頭に立って進めたり、４０歳成人式を開催するなど、コンパクトさを活かした取り組みができると思う。

最後に、P D C Aサイクルの回し方についてだが、個別の事業についてP D C Aサイクルを回すことはできても、それらの成果とより上位の目標、例えば出生率の上昇や総人口の増加などを関連付けることが非常に難しいと思うので、きちんと表現できるよう考えていただきたい。

委 員： 国の総合戦略に「地方における安定した雇用を創出」が掲げられているように、仕事や雇用をどうつくっていくかが重要だろうと思っている。

その点からみると、国の総合戦略にある雇用創出という問題意識と、蕨市の総合戦略とがスムーズにつながっていないように感じられる。

国の総合戦略の基本方針には、「国は各地域の実態に合った施策を、支援の受け手側の視点に立って支援」「最大限の成果をあげるため、直接的に支援する施策を集中的に実施する」とあり、国は各地方の実情に即した具体的な取り組みを求めているように思われるし、バラマキではない、オリジナリティある施策への集中的な投資が重要と言われているので、この総合戦略における取り組みにも、差別化が求められているように思う。

事務局： 国から見れば、地方には雇用がないため、企業を誘致して仕事をつくり、まちを活性化するという循環が必要だ、ということだろうと思う。一方、蕨市は

首都圏に位置づけられ、通勤・通学をはじめとする市民生活が市内で完結するものではないし、市域が狭いので企業誘致が難しいという状況もあり、その中で市としては、総合戦略に創業支援体制の強化を位置づけている。

委員： 市民生活が市内で完結しないというが、それであれば、観光についてはどうか。蕨市だけでなく近隣市や東京都とも連携して取り組むことが考えられ、例えば中山道などを活用して蕨市として何ができるか考える等、蕨市のオリジナリティを明確に打ち出すことでインパクトが出てくると思う。それから、外国人人口の多さと、外国から観光客を呼ぶことを関連付けた施策も考えられる。

事務局： ご意見に関連したところでは、シティプロモーションの施策がある。外国人の多さなど、蕨らしさを出した取り組みを展開できればと思う。参考までに、埼玉県総合戦略（素案）では外国人旅行客数を80万人とするKPIが掲げられているので、県の施策とも関連付けて考えていきたい。

委員： 全体的によくまとまっていると思うが、蕨市総合戦略は国の基本目標①～④のうち①③④を重視している。「③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」と「④時代に合った地域をつくり安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する」については、既存施策、新規施策もよく盛り込まれ分かりやすいのだが、国が言う「①地方における安定した雇用を創出する」については、蕨市総合戦略への落とし込みが弱いと感じる。既存の事業所などをいかに育成するか、市の産業をどう構築するかについて、ぜひ掲げてもらいたいと思う。

新規創業者の支援については、10月2日に国から「蕨市産業支援計画」の認定を受けたので、私ども経済団体も一体になって進めていきたい。既存商店街の魅力向上や事業者の経営安定に、より重点を置いてもらいたいと期待している。

事務局： 庁内の部会でも、既存企業の市外転出を抑制していかに育てるか等、議論しているところである。

委員： 雇用の創出に関してだが、蕨市のみならず、わが国全体的に厳しい状況になっている。15年前と比べ、蕨市の事業所は半数以下に減った。従来の方法では難しいと思うので、再就職やスキルアップの支援を通じた女性の就労促進、先進的な産業の育成といった、新しい方法を考えるべきだろう。

この他、転入者を増やすための新卒者の就業支援や、高齢者の移住支援、少子化対策にも重点的に取り組む必要がある。

市民としてできることは、地域のコミュニティを構築することだと考えている。町会活動では多くの市民に参加してもらい、蕨市の取り組みを共有できるような運営が求められる。盆踊りや夏祭りなどのイベントに若者にも参加してもらい、市民として自覚のある人を多く育てていくことが、まちの安全にも繋

がと考えている。行政と共に様々なことに取り組んでいるが、更に充実させていきたい。

委員： 蕨市は埼玉県の中で犯罪率が高いと聞いたことがある。まちに関心があれば、ポイ捨てをしなくなるなど犯罪の抑制に繋がると思う。清潔なまちにする、空き家を減らす、暗い路地を少なくするなど、犯罪が起きにくい環境を整備することが重要なので、具体的事業を充実していただきたい。

委員： 市外の学校に通っていても、まちと関わるイベントや事業について知るきっかけがあると良いと思う。市外へ出てしまうと、まちのイベント等について知るきっかけがなくなってしまう。進学タイミングで児童生徒に呼びかければ、市外の学校に通う子どもでも、地元との関わりを保つことができると思う。

協働事業提案制度については、知っている人が少ないのではないかな。中高生に対しても情報を発信すれば、応募する学生が出てくると思う。

会長： 時間も迫ってきているが、このほかに、計画案に対するご意見・ご質問はないか。なければ、以上で議事を終了し、事務局に進行を戻すがいかかが。

一同：（異議なし）

会長： それでは、以上で議事を終了し、事務局に進行を戻したい。

【懇談】

事務局： まず、貴重なご意見をいただいたことについて御礼を申し上げたい。次に、本日が最終の懇談会となるので、懇談会に参加しての感想やご意見を各委員からいただきたいと思う。

委員： 今回の懇談会では、初めてお会いする方が何人かいらして新鮮だった。みなさんがしっかりとした意見を持っており、蕨市を愛する方が多くいると、嬉しく思った。私個人としては、市民に想いが伝わるような町会活動に向け、これからも努力していきたい。

委員： 防犯についての話が出たが、犯罪の多さから、蕨市に対してマイナスイメージを持っている人も多いのではないかな。この負のイメージが、転入の増加を阻んでいるように思われる。実際には、女性も暮らしやすく、素晴らしいまちなので、負のイメージを払しょくするような情報発信をお願いしたい。

委員： 関連して犯罪について申し上げると、蕨警察と蕨商工会議所、蕨市、戸田市の大型店の店長が参加する防犯協議会の席上で、万引きが多いという話が出た。対策として商店街に防犯カメラが設置され、犯人逮捕に繋がっている事例も多いようだ。市内の商店街でも、ひったくりが多かったので防犯カメラを設置したところ、犯罪がかなり減少したという。私どもとしても、犯罪防止に協力できるよう、話を進めていきたい。

委員： 蕨市は歴史的な資産を含めて話題が豊富な地域だと思われるので、その特性

を活かしたまちづくりを進めていただきたいと思います。

委員： まず、総合戦略は良くまとまっており、この形で良いと思っている。

私は蕨市に住んでいたのだが、30～40年前は飲食店や商店、映画館など娯楽施設も揃っており、それらのお店に通ったものだ。今では、多くのお店がなくなってしまった。地域で買い物ができ、人間関係のコミュニティもある、非常に魅力的なまちだった。昔は徒歩か自転車で行ける範囲で暮らせたのに、今では車で、川口市などの大型店まで出掛ける必要がある。

このようなことを思い出すと、まちづくりとして古き良きものを残していくことも重要だと感じた。暮らしやすいまちづくりだけではなく、商売が継続でき、歩いて買い物ができるまちを残してもらいたいと思う。

委員： 私はグループワークをして発表会をするような懇談会を想定して応募し、具体的な施策のアイディアも考えていたのだが、戦略の骨組みを決める会議ということで、アイディアについて十分発言できなかった感が残った。もっとも、また機会があれば、戦略を具体的な施策に落としてPDCAサイクルを回す段階で継続的に参加していきたいと考えているので、今後ともよろしくお願いしたい。

委員： 私たちの世代は時間的余裕がなく、学校の授業参観にも来ない方もいる。一方で、2つも3つも役員を掛け持ちで頑張る方もおり、地域で活動する人に偏りがあるように感じている。ちょうどこの会議に参加されている方々のように、健康で余裕がある定年退職者等、シルバーの方々に更にご活躍いただきたいと考えている。

委員： 蕨市について知らないことが沢山あると実感する、貴重な機会となった。今は学生だが、今後社会に出た時に、市民としてまちづくりについて考えなければならない時があると思うので、蕨市の将来の方向性を知り、共に考えることができ、良い経験となった。これからも、市の広報などを通して、蕨市の取り組みについて学んでいこうと思っている。

委員： 蕨市について、各種のデータで知ることができ、とても勉強になったし、懇談会に参加するという経験をさせていただき感謝している。私は蕨が好きで、色々な人に蕨について知ってもらいたいと思っている。今回の懇談会に参加したことで、もっと蕨に関わりたいと改めて感じた。

委員： まち・ひと・しごとについては、しごとが一番大切だと思っているので、経済団体の一員として、今後も取り組んでいきたい。

今回の懇談会では様々な意見が出たが、一般市民や若者から意見を引き出す機会が必要だという声を聞く。市民から意見を聞くような機会をもっと増やすと良いだろう。

人口問題については、国の政策を地方自治体が担うこととなったが、先進国

で出生率2.0を超えているのはフランスだけで、そのフランスが100年かけて達成した数字を国は25年で実現しようというのだから、これは難しいと思う。国がもっと考える必要があると感じるが、いずれにしても、今後も色々なところで積極的に協力していきたい。

委員： 仕事から、埼玉県内の様々な市町村を見てきたが、蕨市はポテンシャルのあるまちだと思っている。今後も、微力ながら蕨市の発展に貢献していきたい。

会長： 総合戦略の立案に関して、国が「産官学金労言」の積極的な参画を促したこともあり、今回の懇談会には、多様なメンバーが揃った。国が戦略の大枠を決めており、議論が足りないと感じる部分があったかも知れない。

日本全国の自治体が一斉に総合戦略を策定するので、周辺自治体の総合戦略と蕨市総合戦略を比べてみると良いと思う。策定に関わったというだけでなく、今後どのように戦略が遂行されていくかに関心を持ち、引き続き、それぞれの立場から関わってってもらえれば良いと思う。

事務局： 蕨市について様々なご意見、ご提案をいただき、おかげさまで総合戦略の案がまとまってきた。今後、パブリックコメント結果等を踏まえ、10月中に成案をまとめていくことになる。

ご意見を伺っていて、蕨を好きな人、蕨を誇りに思う人を増やす、これがまちづくりにおいて一番大事だと感じた。改めて御礼を申し上げる。ありがとうございました。

【その他】

事務局より、意見書提出までのスケジュールを次のとおり説明した。

10月20日（火）事務局より各委員へ意見書案を配付

22日（木）会長より市長へ意見書を提出

以上